

「いちじくグラッセ」の商品化

要約

- ・(社福)大和郡山育成福祉会ひかり園のぞみが、新しい農産加工品の製造・販売について当事務所に相談。
- ・大和郡山市の特産品であるイチジクと県農業研究開発センター(以下研究センター)が開発した製造技術を活用したイチジクのグラッセを提案。
- ・当事務所と研究センターの支援を受けながら、約1年をかけて商品化。

現状(背景)と課題

- ・ひかり園のぞみが新しい農産加工品への取り組みを希望。
- ・福祉作業所の未利用の加工設備(大型乾燥機等)を活用。
- ・福祉作業所利用者が取り組める作業工程が必要。
- ・大和郡山市は、奈良県のイチジク(全国7位の生産量)の約9割を生産。
- ・研究センターがイチジク加工品を開発。

目標

- ・特産品であるイチジクをPRできる新しい土産品の開発。

活動内容

- ・既存の大型乾燥機、大型冷凍庫、大型鍋を有効活用できる農産加工品の検討。
- ・ひかり園のぞみと研究センターをマッチング。
- ・地域資源加工品の魅力向上支援事業を活用し、パッケージデザイン担当のデザイナー派遣およびパッケージ開発支援(4回)。
- ・「いちじくグラッセ」の試作支援(6回)。
- ・PR活動(市長への紹介・テレビ放映)の支援。

成果

- ・研究センターが開発したイチジクグラッセの製造技術をイチジク産地の地元で活用。
- ・大和郡山市のイチジクをPRできるストーリー性のある新商品を短期間で完成。



完成した「いちじくグラッセ」



研究センターとの共同試作



パッケージデザインの打合せ

普及活動のポイント

- ・イチジクは、県のチャレンジ品目として首都圏出荷にも取り組んでおり、大和郡山市のブランド品目としてイチジクをPRできる商品づくりを念頭に活動。
- ・ひかり園のぞみは、当初既存の加工施設で「干し柿」が出来ないかを考えていたが、ストーリー性が期待できる地元のイチジクを活用したグラッセの商品化を提案。
- ・ひかり園のぞみでの試作に、研究センターの開発担当者が参加するようにし、商品化や大量生産をする際の課題を効率的に解決。
- ・商品の完成後、市長への商品紹介や報道発表など、関係機関を巻きこむようPR活動も積極的に支援。

対象の変化

- ・大和郡山市の特産品であるイチジクを意識した商品づくりに取り組むようになった。
- ・焼き菓子（クッキーなど）以外の商品レパートリーが増え、今後も既存の加工施設・機械を活用し、県産農産物を活用した商品開発が期待できる。

対象者からのコメント

- ・良い商品になってよかった。
- ・福祉施設利用者の親族や購入者からも好評を得ており、今後も商品改良に取り組んで行きたい。
- ・パッケージのデザイナーを紹介してもらえてよかった。
- ・商品のバリエーションが増え、既存商品との詰め合わせセットなどを考えたい。
- ・ふるさと納税の返礼品に活用してもらえたらうれしい。

これからの活動ビジョン

- ・現在購入している加工用イチジクの品質の揃いが悪く商品化の歩留まりが悪いため、品質の揃った加工用イチジクの入手方法を検討する。また、生産者（組合）と協働するような農福連携になる取組も検討したい。

活動体制

